

変形労働制対応六附属勤怠システムの開発

吉田崇

高松市立香東中学校長 元附属高松中学校副校長

01 コンセプト

仕様条件

- 動務時間と時間外勤務時間とそれ以外の在校時間の記録ができること
- ・変形労働制に対応していること

制約条件

- ・(学部事務)外注する予算はないので無料で作れること
- ・(附属事務)既存の様式に類似した出力になること
- ・(附属教員)できる限り操作をシンプルにすること

必要要素

- ・出退勤打刻と勤務開始時間記録
- 超過勤務申請と管理職承認を経た記録
- •勤務以外在校時間記録
- ・休暇申請と管理職承認を経た記録
- 上の内容を含む月間勤務時間データをエクセル出力

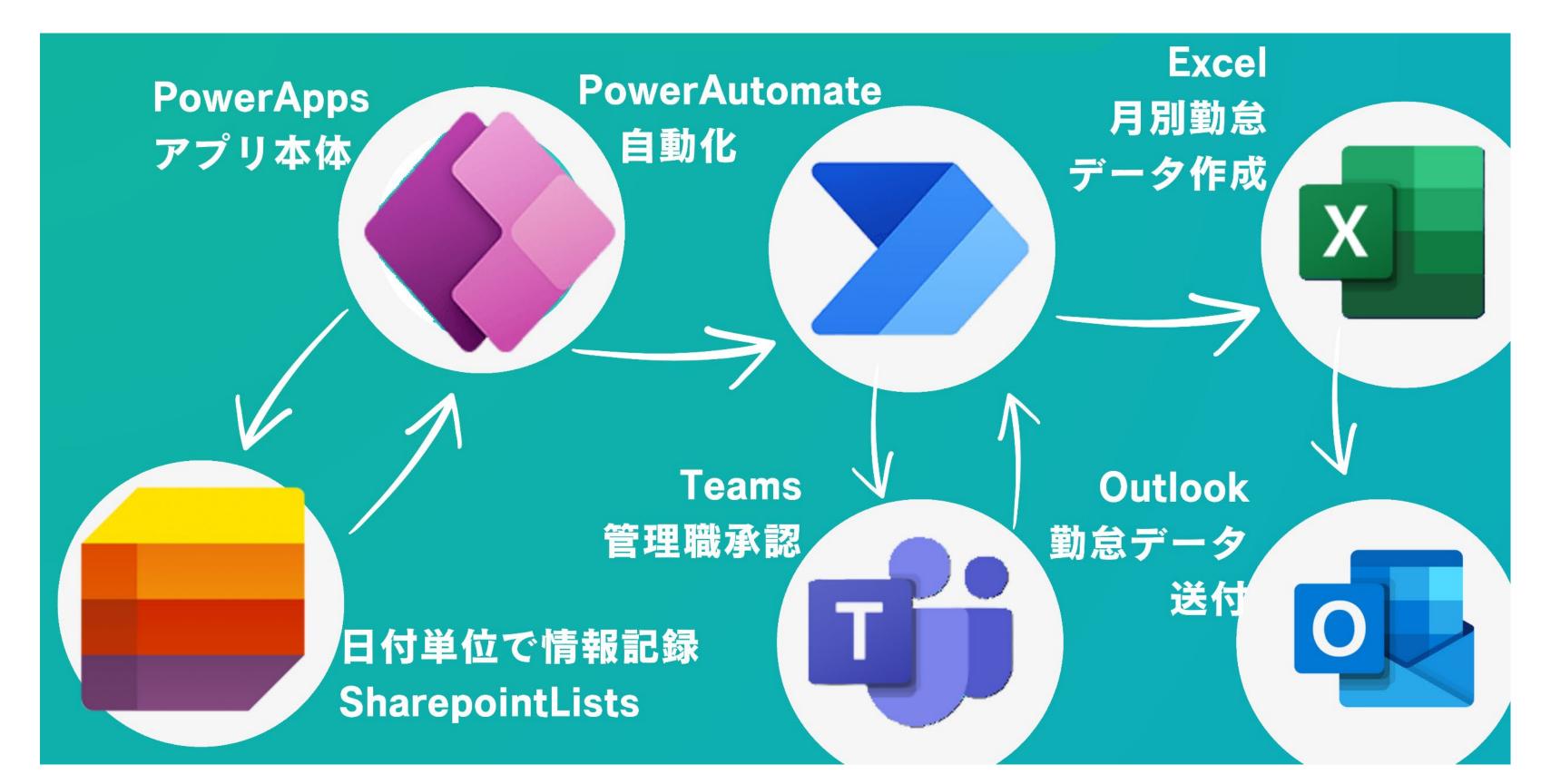
02 システム概要

勤怠アプリ

- Microsoftアカウントと連動
- -勤怠確認
- •時間外勤務申請、休暇申請(承認)
- -勤務時間確認簿

システム

- -Power Apps(プラットフォーム)
- Power Automate(フロー: 承認と申請、月別データ作成送付)
- -SharePoint Lists(日付単位で情報を記録)
- -Teams(管理職による承認)
- •Excel(月別勤怠データ作成、自動化による)
- -Outlook(月別勤怠データ送付)
- •スクリプト(勤怠アプリ作成中にSharePoint上に保存できる仕様になった)



03 効果

- ・市販の勤怠管理システムを使用するための予算削減(年間30万円程度の寄与)
- ・附属教員の教員勤務時間管理と記録の一元化(追徴費用削減に寄与するはず)
- 附属教員の時間管理感覚の向上
- ・附属教員の休暇申請のペーパレス化(間接的に紙製出勤簿の廃止に寄与)

04 課題と展望

課題

- -SharePoint Listsの閾値問題(現在は毎月中頃に70日以前のデータのバックアップを取って削除するフローで対応)
- •附属教員は交流人事で異動するが、管理者が異動する場合の引継ぎ問題(勤怠アプリ以外の校内システムでエラーが生じた) 展望
- ・附属学校間で必要書類等の共通様式をアプリに反映させることで事務処理の軽減が図れるのではないか。
- ・全国附属学校へ紹介して相互にブラッシュアップしたり、配布することで連携が図れないか。



六附属勤怠記録





